

Check

今月の栽培ポイント

9月

宮農情報



詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231	浦 崎 支 店 ☎0848-73-3311
尾道北営農センター ☎0848-29-9611	御 調 支 店 ☎0848-76-2242
向島営農センター ☎0848-44-2106	甲 山 支 店 ☎0847-25-5035
因島営農センター ☎0845-25-6161	世 羅 西 支 店 ☎0847-37-7100
世羅営農センター ☎0847-25-5029	東 生 口 出 張 所 ☎0845-28-0211

水 稲

現在、北部地域では、早生品種の刈取りを迎えております。

10月に入ると南部地域の中生・晩生品種を中心に刈取りの最盛期を迎えます。

刈取り作業では、安全に効率良く作業を進めましょう。

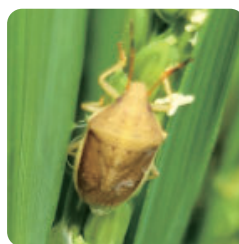
【病害虫予察】

7月25日時点において、県内全域に対し斑点米カメムシ類の注意報が発表されています。

管内の圃場においても、イネカメムシ



▲トビイロウンカ



▲イネカメムシ

防除薬剤は「スタークル」を含む薬剤を使用してください。

また、8月上旬の県の調査圃場ではウンカ類の飛来も確認されており、高温多湿となる気候が続くと繁殖しやすくなるため、引き続き注意が必要です。トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に届くよう散布しましょう。

やホンハリカメムシ等が確認されています。穂の不稔や斑点米の原因であり、被害が拡大すると減収につながるため、必要に応じて追加防除を実施してください。粉剤や液剤を使用して防除を行う際には、圃場の水位を上げ、株元に潜む害虫を押し上げることで防除効果が高まります。

【7年産米の振り返り】

米づくりも刈取りから乾燥調整へと終盤を迎え、収量や品質の結果でこの一年の栽培を振り返る時期となりました。

今年は、4月下旬から気温の低い日が続き、5月中旬頃に植え付けた圃場では硫黄欠乏の症状もみられましたが、その後は気温が平年を上回り、初期成育は順調に進みました。

田植後において、藻の発生的好条件となる水温20～30℃の日が続き、除草剤の使用に支障をきたした圃場がみられました。

また、今年の梅雨明けは今までで最も早い6月27日となり、例年より中国大陸から飛来してくるトビイロウンカが少ない状況でしたが、冒頭で触れたとおり、ウンカ類やカメムシ類による被害発生の可能性もあるため、これから登熟期を迎える南部地域は今後の状況に注視する必要があるとあります。

梅雨明け以降は最高気温が35℃を超える日が続き、圃場周辺では40℃に迫る状況となっていたことから、コシヒカリ等では高温障害による白未熟粒の多発が懸念されています。

7～8月は降雨量が少なく、生育中期に水の確保に苦慮する事態となりましたが、8月半ばの降雨により、生育状況は概ね順調に進んでいます。

9月、10月ともに、気温は高く推移す

るとみられ、台風による倒伏や秋雨前線の停滞による収穫作業の遅れにも注意が必要です。

異常気象といわれる昨今の気候に左右されず、十分な収量・品質が確保できたのか、また、各生育段階で適切な栽培管理ができたかを振り返り、今後の課題を見つけ出すことは、とても重要なポイントです。

まだまだ暑い日が続きます。熱中症と機械の取扱いには十分注意し、安全に効率良く作業を進めましょう。

柑 橘

10月はみかんの着色期に入ります。着色には温度が関係しており、品種により若干差がありますが、夜温18℃くらいになると着色のスイッチが入ります。着果不良、着果過多、過乾燥などは果実の着色にとってマイナスとなります。

【中晩柑類・みかんの仕上げ摘果】

収益につながる等階級に仕上げるため、仕上げ摘果を徹底しましょう。小玉果・傷果中心に摘果します。

本年度は夏の高温により、日焼け果が多発しています。日焼けした部分は、果汁が少なくス上がつていて、着色すると見分けにくくなるので着色前に摘果しま

しょう。上向きの果実は果梗枝ごとに摘果しましょう。

みかんは着色後に結果量が多いと糖度があがらないので、着色前には仕上げ摘果を完了しましょう。

摘果基準		単位mm	
品種	目標階級	9月20日	9月30日
ハ朔	L以上	75	78
デコボン	2L以上	68	71
はるみ	L以上	57	61
レモン	M以上	46	49
いしじ	S未満	48	50

【灌水】

中晩柑類は、引き続き降雨が10日以上ない場合には灌水を実施しましょう。夜温が低下すると、灌水しても肥大促進効果や減酸効果が小さくなります。肥大や酸に問題のある園地は、特に9月の灌水を徹底しましょう。

【みかんの品質向上】

◆タイベックマルチの被覆

雨が多い場合や糖度が低い場合は、マルチ被覆が品質向上に効果的です。着色促進効果だけを狙う場合は、収穫30日前までには被覆しましょう。

◆カルビタPの散布

8～10月にかけて3回以上散布すること

により浮皮軽減・果皮強化を図ることが出来ます。

◆フィガロン散布

雨が多く浮皮の発生が懸念される場合は蚩尻期にフィガロン乳剤を散布します。（樹勢が弱るので年間2回まで）

◆枝吊り

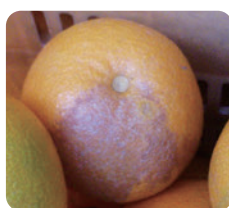
枝吊りを実施し着色向上を図りましょう。水平より上に果実を吊り上げると糖度が上がり難くなるので注意しましょう。

【病害虫防除】

◆炭そ病（流れやケ）

秋に気温が高く、雨が多いと炭そ病が多発します。9月下旬の薬剤散布と枯枝除去を徹底しましょう。昨年度はレモンにも多発したので注意しましょう。

ジマンダイセンの使用時期は、中晩柑類については収穫90日前までとなっているので注意しましょう。



▲ハ朔炭そ病被害

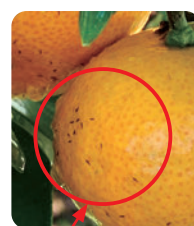


▲レモン炭そ病(サビ果)

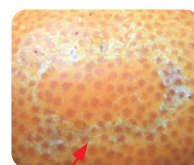
◆アザミウマ

極早生や早生みかんでは、着色期のアザミマ被害が果実腐敗に繋がりが問題となります。昨年度被害が多かった園地では、

粘着シートを園地に設置するとアザミウマの発生予察が可能となります。発生が見られる場合は、コテツフロアブルで防除してください。



アザミウマ



アザミウマ被害

◆ハダニ

果実の着色期にハダニ被害を受けると着色不良となり正品で出荷出来なくなります。発生初期に薬剤を散布するようにしましょう。



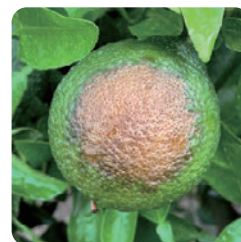
▲上 ミカンハダニ被害果
下 健全果



▲ミカンハダニ

◆サビダニ

9月中下旬頃にイオウフロアブルを散布しましょう。高温時散布は薬害が発生することがあるので注意しましょう。



▲イオウフロアブル薬害

◆みかんの腐敗防止剤散布

収穫前には必ず腐敗防止剤を散布しましょう。

◆ケムシの駆除

春先に新芽を食べる毛虫は、前年の秋にアカメガシワで孵化した個体です。秋はアカメガシワに糸をひき、多くの個体が群れているので効率的に駆除できます。また、産卵される前に園地周辺のアカメガシワを伐採するのも効果的です。

【夏秋梢の処理】

次年度の春芽の発生を促すためとカイヨウ病防止目的で夏秋梢を処理します。強い枝は芽つぼの上で処理し、弱い枝は芽つぼの下で処理します。直立し樹形を乱す枝は基部から切除します。早く処理すると秋芽が再発するので、10月中旬から実施してください。しらぬひ・はるみは、次年度の結果母枝として夏芽を利用

するので切らないでください。※複数の夏芽が発生する場合は1本から2本程度に間引いてください。

【レモンの収穫について】

10月のレモンは、果皮が未熟で少しの衝撃でヤケが発生します。果実は丁寧に扱きましょう。収穫カゴやコンテナには緩衝材を用いましょう。また、横径55mm以上の果実を収穫し、小玉果を収穫しないように注意しましょう。(収穫リングを使用すると便利です)



▲雑な取り扱いによりヤケが多発する



▲ピンク色リング S以上収穫用



▲収穫カゴ用緩衝剤 まもってマット



▲オレンジ色リング M以上収穫用

【鳥獣害、イノシシ対策】

鳥獣害は最初の被害をいかに抑えるかがポイントとなります。一度、食べて味をしめるとどうやってでも侵入しようとしてしまいます。早めに対策を講じるようにしましょう。イノシシは電気柵やフェンス、

鳥害はテグスや小太郎を設置しましょう。

落葉果樹

【共通管理】

◆樹勢回復

収穫が終了した園では、樹勢の回復のために速効性の肥料を施用し、灌水を行なってください。

貯蔵養分の確保が、次年度の収量に大きく影響します。そのためには葉を健全に保つ必要がありますので、収穫終了後すぐに病害虫防除を行ないましょう。

◆土壌改良

完熟堆肥を積極的に投入し、地力ある園地にしましょう。

ぶどう

◆病害虫防除

病気や害虫の発生に注意しながら、樹を健全に保ってください。

べと病・ハダニ類・トラカミキリに注意してください。

◆基肥の施用

10月中には施用し、施用後は十分に灌水を行ないましょう。

いちじく

暑い日が続いています。収穫期間中も

灌水を継続的に行いましょう。

収穫・選別作業も終盤に入ります。

気温の低下とともに、小玉果や未熟果、着色不良果が増え、果実品質も低下してきます。

収穫終了後は、樹に残った果実が病害虫の発生原因となりますので、すべてもぎ取り処分しましょう。

◆密植園の間伐

葉のあるうちに、園地の混み具合をみて密植になっていたら冬期に間伐しましょう。

密植園では、収穫・防除等の作業性が大変悪く、また日照不足により、果実品質の低下および病害虫の発生を招きます。密植だからといって樹を切りつめようとする、剪定が強くなりすぎてしまい、枝が徒長して熟期の遅れや着色不良果等を助長するおそれがあります。

なお、イチジクは樹幹拡大が早いので、植え付け時から十分に植栽間隔をとっておきましょう。

もも

◆堆肥の投入

堆肥を投入していない園地では堆肥を施用しましょう。

毎年の土づくりが高品質果実生産につながります。

落葉期が近づいています。この時期は

樹相の確認ができます。

新梢が遅くまで伸びている場合は、施肥量を少なくすることや剪定の量を少なくして、樹を落ち着かせます。

落葉も一斉にすることが好ましいです。落葉開始期から終期まで長くかかる場合は、施肥量が多すぎるなど、遅くまで肥料が効いていることが考えられます。また、早期に落葉するようだと、肥料が少なく考えられますので、樹相を確認し、今後の施肥設計に反映しましょう。落ち葉や残果は、病害虫の越冬源になり、翌年の発生源となります。必ず園外へ持ち出し処分してください。

なし

【土壌管理】

灌水は土が乾燥しないように定期的に行いましょう。

収穫終了後、良質の堆肥を10アール当たり2〜4トン施用してください。

礼肥は、早すぎると遅伸びの原因となり、花芽の充実不良の要因になるので、10月の下旬に即効性の肥料(硝酸入り化成肥料S604)を、10アール当たり20kg施用して下さい。

(一発肥料は必要ありません。)

施用後は必ず灌水し、肥料を吸収しやすくしましょう。

【病害虫防除】

貯蔵養分を蓄えるために、できるだけ長く、葉を樹につけておけるよう防除を徹底し、葉を大切にしましょう。

家庭菜園

秋の気配を感じる時期になりましたが、まだまだ厳しい残暑が続きます。引き続き熱中症に注意しながら作業を行いましょう。

9月は、葉菜・根菜類の種まき、育苗・植え付け、間引き、追肥・土寄せ等の作業が並行的に行われ、繁忙期を迎えます。また、9月の高温・乾燥期には、コマツナ、ブロッコリーなどのアブラナ科野菜は、ダイコンシンクイムシによる被害を受けやすいため、早めに防除を行いましょう。

【キャベツ・白菜の栽培】

冬取り栽培の場合、9月中旬～10月上旬に苗を定植します。

◆畑の準備

堆肥と石灰を施した圃場に、1㎡当たり120g程度の元肥を施します。

◆定植

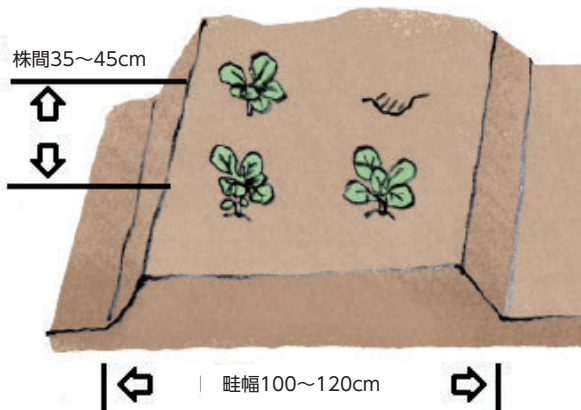
栽植密度は品種に合わせて調整します。小球の場合は畝幅60cmの一条、または100cmの二条、株間は40cm。大球の

場合は畝幅70cmの一条、または120cmの二条、株間45cmとします。

植え穴にたっぷり灌水した後、植え付けます。また、高温期には、日中を避けて朝夕の涼しい時に植え付けます。



本葉3～4枚で定植



◆管理

追肥は定植後30日が経過した頃に1㎡

当たり30g施します。結球期に乾燥すると肥大が劣るので注意しましょう。秋口は害虫が非常に多いので、農薬を使わない場合は、必ずネットやビニルマルチ等で保護しましょう。

【葉物類の暑さ対策】

秋どりホウレンソウ、コマツナ等の種まきも本格化します。

暑さが続いている場合は、種まき後に遮光率30～40%程度の遮光ネットをトンネル状に被覆して、裾を10cm程開けます。ネットを張ったままだと徒長しやすくなるため、本葉が4～5枚になったら取り除きましょう。

ホウレンソウは、特に暑さに弱いので涼しくなるのを待って種をまきましょう。

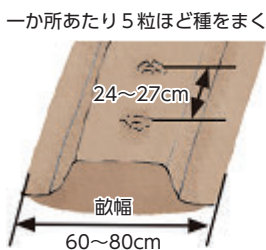
【ダイコン・ニンジンの栽培】

◆畑の準備

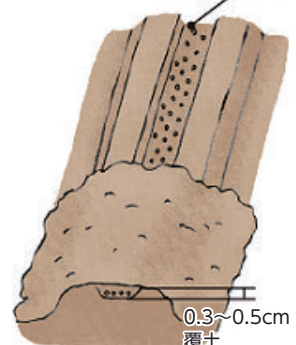
堆肥と石灰を施した圃場に、1㎡当たり150gの元肥を施します。

◆播種と間引き

ダイコンは点まき、ニンジンはずじまきにします。

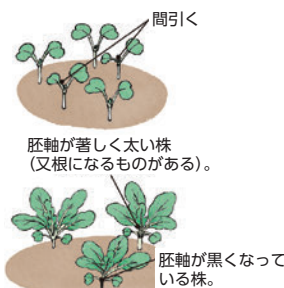


タネをばらまきする。



覆土（手または平鍬で厚くならないよう注意して覆土する）。

①子葉展開時に子葉が正ハート形でない個体を間引き、1カ所3株残す。



②本葉4～5枚までに生育が遅れている株、本葉が異常に大きい株、胚軸が著しく太い株、胚軸が黒変している株、本葉が奇形の株などを間引き、1カ所1株（株定め）とする。

発芽するまでは、もみ殻や寒冷紗などでタ立や台風から守りましょう。

発芽したら、数回に分けて間引きを行い、本葉が5枚になる頃に最後の間引きを行います。ニンジンの場合、最終的な株間は12cmが目安となります。

◆管理

追肥は間引きが終わった頃に施します。併せて軽く土寄せを行うとよいでしょう。

間引いた野菜も食べられます。みそ汁の具などに利用しましょう。